



大地の実り

水戸市立下大野小学校
学校便り NO. 17
平成27年12月2日

激走 校内持久走大会！

12月1日(火)、澄み渡る青空のもと、絶好の持久走大会日より。日ごろの5分間走の積み重ね、また、ここ3週間余りの本気モードの練習の積み重ねで、素晴らしい記録が続出しました。なんと、大会新記録と大会タイ記録が7つという快挙です。それもよかったことなのですが、なんとといっても、最後まで勝負をあきらめないゴール直前まで勝負を捨てない姿や、自分の練習タイムより少しでも上げようと意識している姿をたくさん見ました。6年生は全員が自己ベスト記録更新だとのこと。子どもたちの頑張りは、勇気や元気をくれます。うれしい、うれしい1日でした。(参考 1・2年700m, 3・4年1,000m, 5・6年1,500m)

1年	1位	大和田陽翔	3' 05"	5年男	1位	大和田歩夢	5' 34" 53	大会新
	2位	高橋 真花	3' 07"		2位	一家 葵	5' 34" 75	大会新
2年	1位	大谷 和那	2' 49"	5年女	1位	久野穂乃花	6' 08"	大会新
	2位	松浦 優雅	2' 52"		2位	雲井 乃愛	6' 30"	
	3位	黒澤 侑真	3' 06"		3位	鈴木優里花	6' 33"	
3年	1位	吉川 怜佑	3' 56"	6年男	1位	人見 湊斗	5' 22"	大会新
	2位	大和田 蓮	4' 03"		2位	荻沼 航世	5' 35"	
	3位	久野 陸人	4' 14"		3位	人見 隼斗	5' 43"	
4年男	1位	久野 鉄太	3' 40" 57	6年女	1位	松浦 樹音	6' 27"	大会新
	2位	大和田拓夢	3' 40" 75		2位	鈴木 伶奈	7' 00"	大会新
4年女	1位	荻谷 碧衣	3' 56"					大会タイ
	2位	高橋 梨乃	4' 02"					



常澄地区小中学校駅伝大会 (11/21)

過日行われた上記大会において、常澄地区の小中学校代表男女別5チーム、4年生から中学校2年生まででタスキをつなぎました。下大野小チームが男子は2位、女子は5位でした。6年生の人見湊斗さんは区間賞に輝きました。

4年 大和田 拓夢・荻谷 碧衣
5年 大和田 歩夢・久野 穂乃花
6年 人見 湊斗・松浦 樹音

このメンバーの練習に励む姿が、持久走大会での全体の頑張りにつながっていました。



下大野ふるさと自慢 番外編

夏休みに郷土を流れる備前堀について調べた5年生荻沼彩夏さんの研究作品「備前堀と田んぼのつながり」が、第35回児童生徒による「わたしたちの郷土」研究発表会において、教育会長賞をいただきました。備前堀については、ふるさと自慢として、名前を挙げる人がたくさんいました。この堀のおかげで、この下大野地区はおいしいお米がたくさん穫れるのですね。



6年生が短歌に挑戦！ 多少の？はお許してください…。

好物は 母が作った しょうが焼き
キャベツに挟み ほぼぼるとき
大高 政信

かいだんは 一歩 一歩力入れ
努力し続け 登り終えるとき
吉川 大輝

秋になり 紅葉の季節 きれいだな
サッカーしよう ワクワクするよ
人見 隼斗

幸せは 秋の味覚を たんのうし
自然と 一緒に 秋を過すとき
埜 紫遥

喜びは スポーツ終わりの 夕食で
おいしいご飯を 家族と食べるとき
荻沼 航世

喜びは ミルと初めて 外に出て
木に囲まれて 散歩したとき
鈴木 伶奈

幸せは 舞台へふみ出す その一歩
今までのことを 思い出すとき
高橋 茉那

「読書の秋」にちなみ読書感想文コンクール「優秀」作品紹介 その2

動物を飼うための責任

5年 大谷 姫菜

私は、動物が大好きです。特に犬が大好きなので、「捨て犬、未来と捨てネコ、未来」という本を読みました。日本では、1年間に16万匹以上の犬とネコが動物愛護センターという行政施設で殺されています。ここでは、犬やネコを飼っている人やこれから飼いたいと思っている人への相談や指導などをする他に、ほかくした野良犬や飼えなくなった犬やネコを収容して処分するという管理業務も行っているそうです。それらの犬やネコたちは動物愛護センターの管理棟という場所に入れられ、新たな飼い主が見つからない場合は殺処分されてしまうそうです。何も悪いことをしていない犬やネコが殺されてしまうのです。私は胸が苦しくなりました。犬やネコを飼っていた人たちは、どんな思いで犬やネコを捨てるんだろう。いなくなったぬいぐるみを捨てるみたいにポイッと捨てるのだろうか。動物を捨てるということは、殺していることと同じではないだろうか。でも殺されるばかりではありません。動物を捨てる最悪な人間も残念ながらも、殺処分される前に犬やネコをすくってくれたのも、また人間だったと本に書いてありました。きちんと責任をもって飼っている人もいます。私は少し安心しました。幸せな犬もネコもいるんだと。

私も自分が小さい時、家で柴犬を飼っていました。長生きしましたが、老すいで死んでしまい、今家では犬を飼っていません。毎日、家族のだれかが夕方お散歩に連れて行って、毎日同じ時間に犬にご飯をあげたり、お水を交換したり、狂犬病の注射に連れて行ったり、犬の具合が悪いときは、動物病院に連れて行ったり、旅行に行く時はおじいちゃんやおばあちゃんにたのんで出かけたりしていました。死んでしまった日は、とても寒い冬でした。大好きだった犬が死んでしまったということに私は泣き、その悲しみから、なかなか立ち直ることができなかったことを思い出しました。

いつか私も犬といっしょに暮らししてみたいと思っていますが、「ただかわいいから飼いたい。」「友だちが飼っているから私もほしい。」という理由では飼えないので、犬を飼うという責任が強くもてるまではがまんしたいと思います。人間も動物も幸せな生活を送るには、一人一人が責任をもって家族の一員として愛情をそそぎ、信頼関係をきずいていくことが大切だと思いました。そして、どんなに忙しくても、毎日声をかけ、ふれあい、遊び、最後まで一緒に暮らすことが犬やネコにとって一番幸せなことだということです。

私は、将来、動物にかかわる仕事をしてみたいと思っています。命の大切さを伝え、少しでも多くの人たちが、責任のある飼い主さんになってもらいたいです。



